

南アルプス国立公園における 生態系維持回復事業計画の策定 に関する説明資料【資料1-4】

- ・公園計画の変更(一部変更)
- ・南アルプス生態系
維持回復事業計画の策定

- ・シカによる生態系への影響
- ・生態系維持回復事業について
- ・南アルプス生態系
維持回復事業について

全国でのシカによる影響



- シカの生息域は全国で1978年の調査から1.7倍に増加。
- シカの農林業被害は約71億円(平成21年)。
- 19の国立公園で自然生態系への影響を確認。

国立公園の内外を問わず全国的な問題



・シカによる樹皮はぎ、後継樹などの食害

・絶滅危惧種や高山植物などの一部も食害が報告されている。





シカの過度な採食圧
による植生の変化、
土壌流失

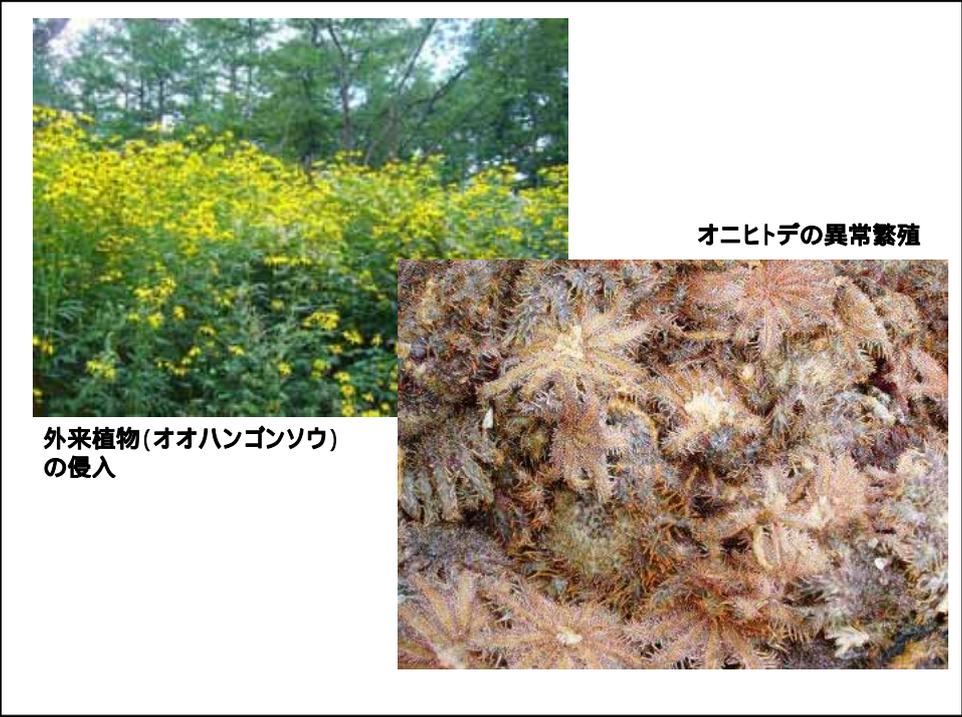


・生態系維持回復事業について

国立公園における生態系の問題

- シカやサルによる自然植生への食害
- オニヒトデなど異常繁殖によるサンゴへの影響
- 外来植物の侵入による在来植物の駆逐

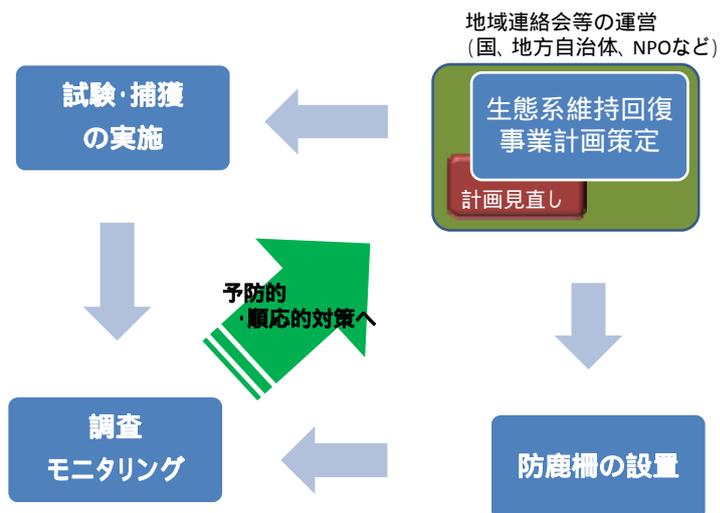
→従来の規制措置は人的行為からの保護であったため、
対応できない事例が各地で見られるようになった。



生態系維持回復事業の特徴

- 生態系のプロセスや生物間の相互作用に注目し、総合的な取組をモニタリング等で順応的に実施。
- 地方公共団体等の参画、連携の促進
- 参画団体による事業の許認可不要による迅速化

生態系維持回復事業の流れ(例)



南アルプス国立公園の概要

- 指定 昭和39年6月1日
- 面積 35,752ha
- 特色
 - ・3,000m級の山岳地帯
 - ・高山、亜高山帯に特有の動植物
 - ・生物多様性の観点からも重要



仙丈ヶ岳



ライチョウ



キタダケソウ



ホテイラン

南アルプス国立公園でのシカによる影響



不嗜好植物の優占



植生の衰退



シカの高山帯・亜高山帯への侵入



亜高山帯でのシカ道の発達

南アルプス国立公園でのシカによる植生の変化

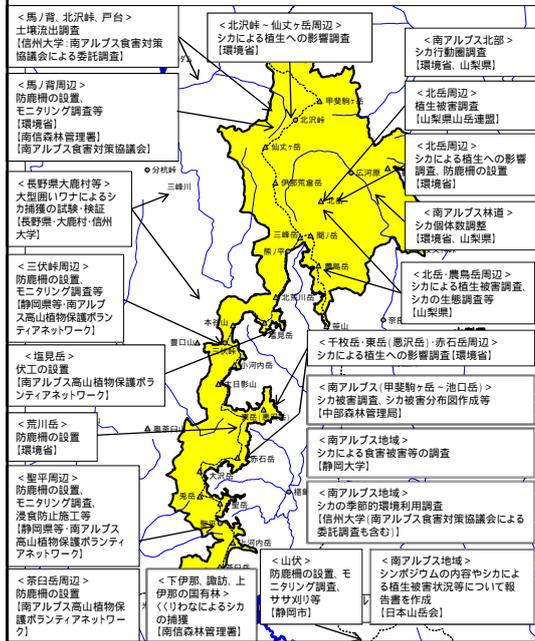


平成9年8月17日
薊畑お花畑(中部森林管理局 元島清人氏提供)



平成19年7月27日
薊畑お花畑(中部森林管理局)

これまで南アルプスで実施している事業の概要



- これまで、国・自治体・民間等の様々な事業体がシカ対策に取り組んでいるところ。
 - 広域での連携、情報共有の場として「南アルプス高山植物等保全対策連絡会」を設立。
- ↓
- 国として生態系維持回復事業計画を策定し、南アルプス国立公園のシカ対策を強力に推進

15

南アルプス生態系維持回復事業

- 共同策定省庁 農林水産省 環境省
- 事業期間 平成23年～平成28年3月
- 事業区域 南アルプス国立公園全域
- 事業の目標

ニホンジカの影響が及ぶ以前の植生である**1980年代の植生を目安として**、南アルプス国立公園の生態系の維持又は回復を図ることを目標とする。

- 事業の実施体制

事業に係る関係行政機関、団体等は「**南アルプス高山植物等保全対策連絡会**」等で情報共有、連携、協力して実施するものとする。

南アルプス高山植物等保全対策連絡会

< 環境省 >

関東地方環境事務所国立公園・保全整備課
南アルプス自然保護官事務所(事務局)

< 林野庁 >

中部森林管理局指導普及課
南信森林管理署

・長野県林務部野生鳥獣対策室
環境部自然保護課

・山梨県森林環境部みどり自然課
静岡県くらし・環境部環境局自然保護課

・伊那市産業振興部耕地林務課

・飯田市水道環境部環境課
産業経済部林務課

・北杜市産業観光部林政課

・韮崎市農林課

・南アルプス市農林商工部みどり自然課

・静岡市環境創造部清流の都創造課
農林水産部中山間地振興課

・富士見町産業課

・早川町振興課

・川根本町商工観光課

・大鹿村産業建設課

2の国の機関 3の県 10の市町村によって構成される

**南アルプス生態系維持回復事業の内容についても
この場で反映されることとなっている。**

南アルプス生態系維持回復事業 概念図



モニタリング
調査



シカの捕獲
防鹿柵等の
防除



植生などの
維持、改善



希少動植物
の保護増殖



普及啓発

各事項について、実施者が連携を図り、順応的かつ総合的に取り組む

事業の情報共有、連携の場

南アルプス高山植物等保全対策連絡会

南アルプス生態系維持回復事業 今後の取組

